

E 環境

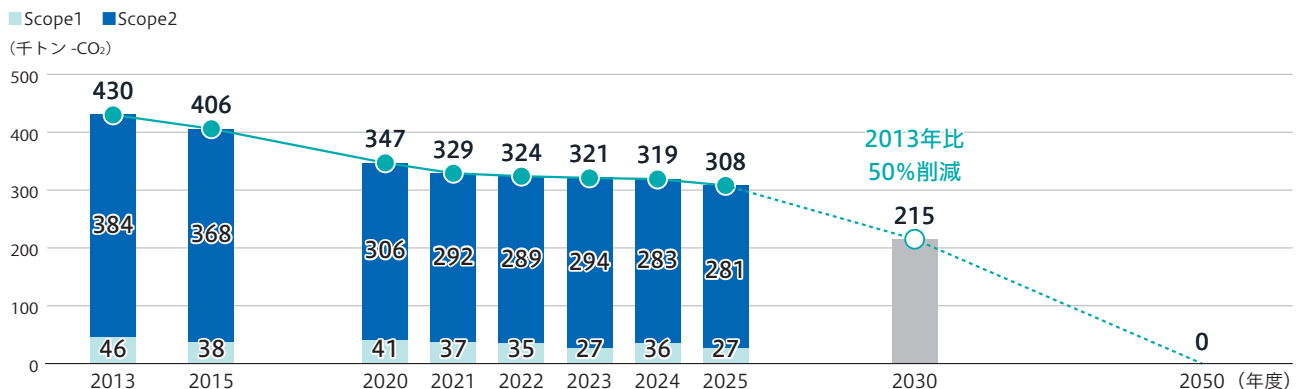
気候変動抑制の取組み

カーボンニュートラル実現に向けた取組み

「2050年にカーボンニュートラル（実質ゼロ）」を目指し、温室効果ガス（GHG）の排出量削減を進めています。Scope1、2について、2030年に2013年比50%削減を目標に掲げ、2025年は2013年比で28.4%の削減となっています。

カーボンニュートラルの実現に向け、これまでに進めてきた製造工程の省エネルギーや燃料転換に加えて、太陽光発電や小水力発電などの再生可能エネルギー発電の自社保有拡大を進めています。また、一部で試行してきたインターナルカーボンプライシングを2026年より導入します。設備投資判断の参考指標とすることにより、GHG排出量削減の取組みを加速していきます。

GHG排出量推移と削減目標（Scope1+Scope2）



再生可能エネルギーの導入拡大

自社工場内外での再生可能エネルギーの導入を拡大しています。名古屋物流センター（出力1MW）に続き、2025年には高岡工場においても、出力1MWのメガソーラーによる発電を開始しました。さらに、名古屋工場と広野工場でもメガソーラーの建設を進めています。また、小水力発電にも取り組んでいます。長野県で建設を進めている当社第1号の小水力発電所は2026年の発電開始を予定しています。第1号以降も小水力発電所の導入を拡大する予定であり、続く発電所の調査、開発を進めています。

カーボンニュートラル蒸気の導入

化学製品の製造工程における加熱には蒸気を使用します。蒸気は主に都市ガスなどの化石燃料をボイラーで燃焼させて発生させるため、CO₂を排出します。当社では横浜市と連携し、ごみ焼却工場で発生するカーボンニュートラル蒸気を横浜工場へ導入する実証事業に取り組んでいます。

水素エネルギーの活用

カセイソーダ製造時に得られる水素は、化石燃料とは異なり燃焼してもCO₂を排出しません。当社は、徳島工場に続き、横浜工場や名古屋工場にも水素ボイラーを導入し、化石燃料を使用しない蒸気の発生を実現しています。

低炭素水素の活用

使用時にCO₂を排出しない水素をエネルギーとして使用する「愛知県知多市における低炭素水素モデルタウン実証事業」に取り組んでいます。名古屋工場において、再生可能エネルギー電気をを用いて食塩水の電気分解を行い、得られた低炭素水素を、公共施設や住宅での燃料電池利用や水素給湯器など、幅広い分野での水素利用に向けて供給します。

TOPICS

デマンドレスポンスの運用

再生可能エネルギーの有効活用と脱炭素の推進に向け、電力需要側で使用量を調整する「デマンドレスポンス（DR）」に取り組んでいます。再エネ発電量が多く電力が余りやすい時間帯（春秋の休日など）に、生産設備の稼働をシフトし、社会全体の需給バランス安定化に貢献します。名古屋工場の電解槽を活用し、要請に応じて出力（電力使用）を増やす「上げDR」を実施しており、事前シミュレーションと現場連携により、生産計画への影響を最小限に抑えながら運用しています。